— 転載論文 —

大規模ヒマワリ畑の景観が人に与える癒し効果

中川祥治¹ 菅原啓順¹ 池田俊一² 木村友昭³ 清水幸一¹ 松本 洸⁴

¹公益財団法人 農業・環境・健康研究所, ²名寄市経済部営業戦略室営業戦略課
³一般財団法人 MOA健康科学センター, ⁴日本大学大学院芸術学研究所

摘要

観光資源として利用されている大規模ヒマワリ畑の景観が人に与える癒し効果について、北海道名寄市内2か所の畑を調査地として検討した。1か所目の調査は365aの平野部平坦地において平均年齢42.8歳の男女187名を被験者として実施した。また、2か所目の調査は266aの山裾部傾斜地において平均年齢45.7歳の男女61名を被験者とした。癒し程度の評価は日本大学芸術学部で開発された日芸版「癒し」評価スケールを用いた。

その結果、平野部平坦地では99.5%の被験者が「癒された」と感じており、その内容は『治療的』な傾向が高く、リラックスした気分であると評価できた。山裾部傾斜地では100%が「癒された」と感じており、その内容は『治療的』な傾向が若干高く、ほっとした気分であると評価できた。調査地の違いによる癒しの強さを検討したところ、平野部平坦地よりも山裾部傾斜地の癒し効果が高く、その差の内容は自己啓発的な面が強いこと、そして、男性に比べて女性の方が調査地の違いに敏感なことを示した。

以上のことから、大規模ヒマワリ畑の景観は訪れたほとんどの人に癒しを与えるが、地形により効果に差が出るのが明らかとなった。

キーワード

大規模畑、ヒマワリ、景観、癒し、日芸版「癒し」評価スケール

本論文は一般財団法人 MOA 健康科学センター研究報告集, 第18巻, 53-65 (2014) に掲載された論文です。転載にあたり, 一般財団法人 MOA 健康科学センターの了承をいただきました。